

令和4年度 学校自己評価及び学校関係者評価表

武蔵村山市立第九小学校

経営理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>夢や目標の実現に向けて、自らの道を切り拓く子供を育てる学校</li> <li>自己を確立しつつ、自己肯定感をもち他者や地域社会のために力を発揮できる子供を育てる学校</li> </ul>
------	--

【学校運営協議会・会長】堀畑 英夫
学校運営協議会（学校評価分） 令和5年2月16日(木)

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				学校関係者評価							
				目標値		最終評価		分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	意見	評価点 (4点満点)				
				7月 達成値	2月 達成値	達成度	評価								
確かな学力の向上	(中期経営目標) 賢の高い授業の実現に努め、児童の学び意欲や確かな学力の育成	朝学習、授業中、家庭学習で東京ベシックドリルやくり返しドリル等を活用し、漢字、計算、言語等の基礎・基本の定着を図る。	基礎学力の目標である到達度の割合 (ベシックドリル実施結果・児童アンケート)	75 (85)	93%	A	漢字・計算の習熟については、児童・保護者アンケートで肯定的評価が高い。ただベシックドリルや学力測定の結果からは、時間の経過とともに離れていく内容が多くなってしまふ児童も多いことが分かる。何度も繰り返して学習し習熟を図る必要がある。また、家庭と連携した家庭学習の充実も必要である。	朝学習を強化し、漢字・計算のドリル学習を行う。ベシックドリル取組の設定、タブレット等の活用なども意識した取組を行う。また、家庭学習習慣の重要性について児童・保護者に対して啓発を続ける。	アンケート結果からは分かりやすい授業を行っていると思う。小中学校の基礎・基本はとて大切な学習らしく、興味深い授業になるようにしてほしい。習熟や理解が不十分なことは、そのまませず、復習して習得することが大切であることから、家庭学習の向き方にも工夫をしてほしい。	3.4					
				70							71				
				80							90%	A	自分の考えを書く学習活動は、既習事項や生活経験、様々な情報などを整理し、筋道を立てて考えることにつながる。しかし高学年になると、書く内容が高齢になることや、上手に書きたいという心理から書けなくなる傾向があった。	受け身だけの学びにならないよう、自分の考えを書くことを重視した取組を継続してほしい。また生活力上げるためにも必要なことと考える。自分の考えを書くというのはハードルが高い子供がいることから、指導の工夫も必要である。	3.5
				70							75				
豊かな心の育成	(短期経営目標) 基礎的基本的な学習内容の定着と思考力・表現力の育成	指導体制や指導方法の工夫（学年内交換授業やタブレット端末等のICT機器の積極的な活用等）を通して、質の高い授業を提供し、児童の学びに向かう意欲の向上を目指す。	授業に対する児童の満足度 (児童アンケート)	80	107%	A	児童アンケートでは、授業の分かりやすさに対する肯定的評価が85%を超えた。これは日々教員が教材研究や指導法の工夫について研修を重ねている結果であると考ええる。さらに全児童が「授業が分かる、もっと学びたい」という意欲がもてるよう、研鑽していく必要がある。	校内の研究会では、お互いの授業を見せ合い、研鑽し合う時間を今年度以上に確保した。また、日々のOJT研修の機会を増やし、タブレット端末を活用した効果的な指導方法についても追究していく。	タブレット端末やICT機器を利用した授業は、子供の興味や可能性も広がるツールである。上手に活用し、質の高い授業作りに取り組み、教員の負担・不得意によって差が出ないようにしてほしい。タブレット等やプログラミングの授業を行うための環境を十分に整備してほしい。	3.3					
				87							86				
				70							32%	C	読書量については、個人による差が大きい。全体としては目標値には達く届かなかったが、目標の3倍も読んでいる児童もいる。3学期は1～3年生に向けて、保護者や地域の方による「読み聞かせ」を継続実施することができ、児童も熱心に聞き入る様子が見られた。	読書の豊かな心を育てることや、思考力を高める機会を増やすこともつながる。また定期的な校内委員会、毎週の教職員打合せの時間を活用した情報共有やいじめや不登校の未然防止、早期発見、早期解決に努める。	3.6
				23											
豊かな心の育成	(中期経営目標) 安心・安全で、児童が前向きな意欲をもてる学校生活の実現	年3回以上のいじめ防止に関わる授業と毎学期の「学校生活アンケート」の実施、5、6年生対象の都スクールカワフンセラ一面談、縦割り班や学年内交換授業による複数の教員の見取り等により、いじめや不登校の未然防止、早期対応に努める。	楽しく元気に学校生活を送っている児童の割合 (児童アンケート)	100	86%	A	児童アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童は全校の平均で85%であった。低学年の方が高い傾向にある。この項目は100%を旨とするものであることから、一層の努力を要すると考える。	まずは楽しく分かる授業作り、安心して過ごせる環境を整備することや、定期的な校内委員会、毎週の教職員打合せの時間を活用した情報共有やいじめや不登校の未然防止、早期発見、早期解決に努める。	九小は全校の児童数が少なく、目が行き届く環境にあると思う。今後も子供に信頼される教師の育成やカワフンセラの充実、相談できる体制作りも重要である。いじめについて警察の方から話を聞くなどの機会もあるとよい。	3.3					
				87							85				
				80							100%	A	挨拶に関してはよくできている児童が多いが、言葉づかいに関しては課題が残った。ゲームの世界で使われる激しい言葉が日常でも使われることがあった。児童アンケートでは自己評価が高かったことから、言葉使いに対する意識の低下が考えられる。	言葉づかいについては、具体的な例を出して指導を重ねていく。規範意識については、児童アンケートから低学年より高学年に課題があるため、道徳の時間や縦割り活動などで理解を深めていく。	3.3
				80							80				
豊かな心の育成	(短期経営目標) 道徳教育・人権教育の推進といじめ、不登校への取組	縦割りの班活動、縦割りの班掃除、縦割り班遠足等の異学年交流の取組を通して、年長者には役割と責任をもつて集団に貢献する態度や思いやりを、年少者には感謝する心を育てる。	縦割りの班活動についての児童の肯定的評価 (児童アンケート)	80	112%	A	児童アンケート・保護者アンケートともに縦割り活動に対する肯定的評価が高かった。実際、休み時間に子供が怪我をしたり、言い合いをしたりしていると、上級生が保護室まで連れてきたり、間に入って話を聞いたりする場面が見られ、思いやりや上級生としての責任という意識をもつ児童も多い。	九小が育ててきた年長者としての自覚が身に付いている結果であり、社会に出たときにも大切な力となることである。縦割り班活動は、集団への貢献と責任という意識を醸成するために大きな役割を果たしていることから、一層重視していく。	縦割り班活動は長い時間をかけて育ててきた九小の伝統なので、これらも引き続きしてほしい。今の時代だからこそ、下級生を思いやる心や、リーダーシップをとる力などをつけてほしい。	3.8					
				90							90				
				75							102%	A	定期的な校内委員会、毎日の職員打合せの時間などを活用して教員同士の連携を強化し、必要に応じて合理的配慮に関する授業も行っている。また、特別支援のアドバイザーによる研修会を行い、個に応じた支援に対する指導力の向上を図った。	特別支援教室地区公開講座において、巡回相談心理士による講演をしたり、特別支援教室の授業公開や相談日の設定をしたりして、保護者の方々の理解も深め、連携して指導に当たれるようになる。	3.7
				75							78				
健やかな体の育成	(中期経営目標) 丈夫な体とたくましい心の育成	体力テスト結果や体育授業での児童の実態を踏まえ、児童が自らの体力向上について課題意識をもち、改善できるよう指導する。	体育授業における肯定的評価と外遊びをする児童の割合 (教職員・児童アンケート)	70	114%	A	マスクを付けている期間には、十分な運動量を確保することが難しかった。しかし、3学期には持久走に取り組みむなど徐々に体力向上の取組ができるようになっていく。	年間を通して、児童自身が体力向上に向けた目標をもたせること、持久走や縄跳びに取り組みむ週間を設定すること、休み時間の外遊びで、意図的に自分の運動習慣を養う取り組みを行う。	何をすることも、まずは体力が必要である。コロナ禍やゲーム等の普及で外遊びの時間が減ることはとても心配である。外遊びを奨励し、体育の時間も体力向上につながる活動を積極的に取り入れたい。	3.3					
				80							80				
				70							100%	A	う歯の治療率は52%程度となっており、保護者に対する啓発が重要な項目である。この課題は全学的な視野でもあり、今後とも市内の関係部署との連携等も視野に入れて改善のための手立てをさぐる。	引き続き、保護者への啓発を続け、治療率の向上を図る。特に春の健診直後から夏休業期間にかけての取り組みを強化する。	3.5
				70											
開かれた学校	(中期経営目標) 積極的な情報提供、計画的な連携を地域・保護者と深める教育を推進する。	地域の人材・施設・自然環境を積極的に導入した体験的な学習、及び保護者の協力を得た活動・学習を年間2回以上実施する。	教職員の成果評価 (教職員アンケート)	80	88%	A	コロナ禍でここ2年ほど地域との交流も途切れていたが、復活しつつある。教職員アンケートでは地域や外部の方々と連携した体験的な活動を2回以上行えた学校は70%であった。	地域とともに歩む学校をめざし、次年度も、地域の人材・施設・自然環境を積極的に導入した体験的な学習、及び保護者の協力を得た活動・学習を推進していく。どの学級も年間2回以上実施できるようになる。	日々忙しい業務の中、体験的な学習を取り入れるのは大変だと思うが、この地域でなければできない学習があるので、大事に伝えていきたい。子供たちを守るためには地域の方が必要であるので、今後も地域との関係を大切にして取り組んでほしい。	3.7					
				70											
				80							111%	A	学校の情報提供については今年度も高い評価を維持することができた。2学期からはツイートを始め、日常の学校生活の様子を届けられるように取り組んできた。欠席連絡は保護者の利便性を考慮し、ICTを活用した。	これまでも紙ベースで家庭に配付していた学校だよへんや学校通知を、テラでも届けられるよう計画している。学校中に掲載されるより早く、家庭に届くようにしてほしい。	3.7
				88							90				

【達成度】 = 【達成値】 / 【目標値】

【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し

平均値 3.5